飛龍山

毎日新聞旅行　　27･28 日

飛龍山は 1965 年と 2011 年に続いて 3 回目であるが、いつもどこかの山のついでに登るので、登山履歴ではこの山の名前は載っていない。頂上からの眺望もないしその山の名前の通り龍が寝そべっているかのごとき長い山容はかなり特徴があるのであるが、隣の雲取山の方が有名になっている。雲取山は（2017m）東京都と山梨県に跨っているが、飛龍山（2077m）は山梨県だけであるという理由からか。百名山はおろか 200 や 300 名山にすら入っていない。わずかに山梨 100 名山に入っているだけである。高さだって雲取山より高いのに、実は私も今回初めて雲取山より高いことを知った。じっくりと味わってみるとなかなか良い山である。

今回はまいたびとしては珍しく、奥多摩駅集合で路線バス利用である。いつものようにマイクロバスを利用するとツアー料金が 1 万円高くつくということだ。ツアーリーダーは佐野さんでサブは仙石さんだ。2016 年の西穂高の時と同じ岩場にめっぽう強いコンビだ。事前に配られた書類には上村ガイド同行と書いてあったのだが急きょ変更になったようだ。仙石さんは個人でのガイドが本業であり世界中どこでも行くみたいだ。来月はアルゼンチンのアコンカグアであると言っていた。ドイツに住んでいた事もあるらしく、英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語を操るという。

メンバーは男 6 人に女 12 人である。知った顔は男の中に二人、女の中にも前に見たことがあるような人もいたがはっきりは思い出せない。男の二人のうちの一人は、以前にヒマラヤのシェルパのリーダー（サーダー）のピンジョーのことを話し合ったことがある人で、今回もその話で盛り上がった。私よりもかなり早くから海外の山にも行っていたようである。アルパインツアーの創始者である吉野満彦なんかにも案内してもらったこともあるらしい。

第一日目は三条の湯までの標高差 530m であるので超楽チンである。3 時間弱の林道歩きの後 30 分程度の山道歩きで着いてしまう。万歩計も 20000 歩に届かなかった。三条の湯に泊まるのは 3 回目であるがアルカリ度は pH10.3 ということでぬるぬるした感触がある。10.3℃の源泉を薪で沸かしている。以前に来たときはお兄ちゃん一人でやっていたが、今回はおそらく夫婦と思われる一組でやっていた。

第 2 日目は飛龍山頂に登った上、丹波までの降りである。登りは標高差で 400m弱であるが、降りは 1400mくらいあるのでちょっとやりがいがある。三条の湯からのすぐの登りは結構な急登であったがそ

れはすぐに終わり、よく整備された山道になる。北天のタルを過ぎるとほとんど勾配のない道が続き、分岐点に荷物をデポして山頂へ向かう。これが結構長い、飛龍という名前に成程と思う。実際に登ってみれば実感できるが遠くからだとこの山容を確認できるところがないのであろう。だからナントカ名山に入ることがないのかと思われる。山頂も樹林帯の中であるので地味なことこの上ない。

大変なのはこれからである。1400mの降りはやはりキツイ。バーサマの一人が前飛龍からの降りに入ったところで足をつらした。仙石さんが水分を取らすなどの対処をしてそのバーサマはじきに立ち直った。サオラ峠（指導票にはサヲウラ峠とあった）からの降りでは更に別バーサマがふらふらと座り込んでしまった。こういったチョロイのがいることは今の俺にとっては大歓迎だ。おかげでバテタのが人に知られることはなかった。そのたびに仙石さんが彼女らの荷物を背負った。自分のと二人分である。この日の万歩計は 40000 歩くらい。やはりキツイわけだ。丹波に着いた時には暗くなっていた。